

山陰研究センター山本文庫目録稿(三)

田中則雄
(島根大学法文学部)

摘要

山陰研究センター蔵山本文庫は、島根県安来市母里の山本家に伝存した近世の古典籍群から成る。近世小説(特に実録)、漢詩文等々に加え、母里の地で営まれた俳諧の書にまで広くわたるものである。

キーワード・実録、近世小説

前号所収「山陰研究センター山本文庫目録稿(二)」に続き、漢詩文その他の書目を掲げる。

(六) 漢詩文

六一、詩文押義要括

刊本、一冊 一五・七×一一・一 糶

(外) 詩文押義(後補墨書き) (内) 詩文押義要括

丁数 二五

刊記「再改_レ詩文押義_ノ之版_ヲ／享保十二年丁未之初秋／皇都 書林蔵版」

柱記「正益分韻」
※冊首に朱印あり「南」○・九×一・○糶。

六二、詩語碎金

刊本、二卷一冊 一三二・〇×一四・五 糶

(外) 詩語碎金 新刻 (内) 詩語碎金

丁数 六一

見返し「天保新刻／詩語碎金／書林合梓」

※泉要編、石作貞校。

※冊首に朱印あり「雲州／松江／天神町／吉田屋」。冊末に墨書きあり「吉田氏蔵書」。他に朱印(判読できず)、鉛筆書きあり。

六三、古文真宝

刊本、二卷二冊 二六・四×一九・一纏

(外)「新刻／校正」古文真宝(内)魁本大字諸儒箋解古文真宝

丁数 (一) 七一(二) 六九・五

刊記「寛政十歳戊午春正月吉日／書肆／京花屋町油小路東^え人・永田調兵衛、名古屋本町九丁目・本屋九兵衛」

藏書印①(「雲州／母里／山本屋」径三・〇纏)、各冊首、第一冊末

墨書き「山本藤九郎」、第一冊末、第二冊首

※古文真宝後集。

六四、古文真宝後集

刊本、十卷二冊 二二・四×一五・九纏

(外)古文真宝後集(内)魁本大字諸儒箋解古文真宝

丁数 (一) 四三・五(二) 四二・五

藏書印①(「雲州／母里／山本屋」径三・〇纏)、各冊首

墨書き「進敬庵」、第二冊末

六五、三体詩鈔

刊本、十三卷十三冊 二七・二×一九・一纏

(外)三体詩鈔(内)増註唐賢絶句三体詩法／唐賢七言律詩三体系

法／増註唐詩五言律句三体系法

丁数 (一) 七五(二) 四七(三) 四八(四) 五四(五) 四五(六)

二三(七) 五七(八) 五一(九) 七八(一〇) 二八(一一) 四四(一二)

二(四〇(一二) 五五

刊記「寛永十四丁丑三月吉日／二条寺町・西田勝兵衛尉開板」

第八冊末尾に、「素隠鈔／于時元和八年壬戌仲夏丙申朔／草于湘南紫陽山下」。

藏書印①(「雲州／母里／山本屋」径三・〇纏)、第二、五、十一、十三冊の各冊首

※絶句四卷、七言律詩四卷、五言律詩五卷。

六六、「鼈頭／評註」唐宋八大家文読本

刊本、全三十巻のうち巻一、四、十二存、六冊

二二・五×一四・九纏

(外)評註唐宋八大家文読本(内)「鼈頭／評註」唐宋八大家文読本

丁数 (一) 三五(二) 五三(三) 二七(四) 四四(五) 五四(六)

五七

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

見返し「清沈徳潜確士評点／日本吉田利行評註／「鼈頭／評註」唐宋八大家文読本／福岡書舗 林菰落堂梓」

※明治十八年刊(国会図書館本ほか)に該当すると推定する。

(七) 漢学

六七、四書便蒙講述

刊本、全二十巻のうち巻一、十二存、一二冊 二七・三×一九・五纏

(外)四書便蒙講述(内)四書便蒙講述

丁数 (一) 四〇(二) 四一(三) 五一(四) 四一(五) 二八(六)

四六(七) 三九(八) 三九(九) 五三(一〇) 六〇(一一) 三四(一二)

二二 二七

最終冊存せず、元來の刊記等については不明。

蔵書印③(「山本屋」二・一×一・〇糶)、第四、一二冊の各冊末

※大学・中庸・論語存(孟子欠)。

※盧一誠撰、盧伯儒編。全國漢籍データベース所載の二十卷二十冊、

慶安四年刊本に該当するか。

六八、「改/正」四書

刊本、九冊存 二五・〇×一七・四糶

(外)「慶応/改正」大学(中庸、論語、孟子)(見返し題)「改/正」
四書

丁数 (一)一四・五(二)二四(三)二〇(四)三一(五)二五

(六)二四(七)二五(八)四二(九)四〇・五

刊記「三都書肆/京・丁子屋源治郎、全・菱屋友七、全・吉野屋仁
兵衛、江戸・山城屋佐兵衛、全・須原屋茂兵衛、大坂・敦賀屋九兵
衛、全喜藏、全庄七、全彦七、全為七、全義助」

見返し「慶応再刻/羅山先生定本/「改/正」四書/撰都書肆 文
海堂」

墨書き「明治十七年十二月十八日/山本庫太郎」、第九冊首。同冊末
にも同様の朱書きあり。

※孟子の第三冊を欠く。

※朱熹章句、集註。

六九、大魁四書集註

刊本、二冊のみ存 二七・八×一八・七糶

(柱)大魁四書集註

丁数 (一)七六(二)六三

最終冊存せず、元來の刊記等については不明。近世中後期頃。

※外題は後補墨書きにて「大魁四書集註」孟子 卷之四」。

※各冊末に墨書き「秋間屋辰五郎」。

※論語卷六、十、孟子卷四・五のみ存。

七〇、四書章句大成

刊本、全二十二冊のうち十五冊存 二七・八×一七・七糶

(外)四書章句大成(後補墨書き)(内)「第一冊」朱子大学或問重訂
輯釈通義大全、「第二冊」内題なし。尾題は大学章句重訂輯釈、「第
三冊」中庸章句重訂輯釈通義大成、「第四冊」論語集註重訂輯釈通義
大成、「第五、一三冊」論語集註重訂輯釈章句通義大成、「第一四、
一五冊」孟子集註重訂輯釈章句通義大成

丁数 (一)八一(二)五二(三)八九(四)一一五・五(五)八

八(六)九八(七)九五・五(八)八〇・五(九)九六(一〇)一

〇三(一一)七四(一二)六七・五(一三)四七(一四)九七(一
五)六二・五

刊記「寛文十一辛亥六月日/新町通丸太町上ル春日町/書林 田中
文内」(第二冊末)。後印か。

蔵書印③(「山本屋」二・一×一・〇糶)、第一、三、一四、一五冊
の各冊首

※倪士毅等積。全國漢籍データベース所載の寛文十一年刊本に該当
するか。

※第一〇冊の中に、「奉納「安田/関村」長臺寺観音堂脇句」の冊子
(写本)を挟み込む。

七一、〔五経〕

刊本、九冊存 二六・九×一九・三種

(外)〔新/板〕春秋(書経・易経・礼記)(内)春秋経・書経・周易・礼記

丁数 〔春秋〕一四〇〔書経〕(第一冊)五七(第二冊)九七〔易経〕(第二冊)五二(第二冊)九〇〔礼記〕(第一冊)九六(第二冊)一〇〇(第三冊)一一三・五(第四冊)一〇二

刊記「万治式年己亥五月吉日 左衛門〔左衛門〕の前に文字の削除あるか。後印か。

跋「戊辰春正月日/羅山子道春/把筆于東武寓所夕顔巷」

蔵書印①〔雲州/母里/山本屋〕径三・〇糎、春秋の冊首、書経の第二冊首

蔵書印③〔山本屋〕二・一×一・〇糎、書経の第一冊首、易経の各冊末、礼記の各冊首

※春秋の冊末に墨書き「琵琶海南方江州大津/安永五年申五月」。易

経の第一冊末、礼記の第一冊末に墨書き「別所与三吉孝影」。礼記第四冊末に墨書き「藤井高雅門人/別所与参吉」。礼記第二冊末に

墨印(径約一・〇糎、判読できず)。

※詩経を欠く。

※近世中期の後印か。

七二、易術便蒙

刊本、一冊 一五・九×一一・〇糎

(外)欠(内)易術便蒙

丁数 九八・五

刊記「明和五年戊子五月良辰/皇都 二条富小路西へ入丁・野田藤八、四条寺町西エ入丁・著屋勘兵衛、両替町二条上ル丁・升屋喜六、寺町四条上ル丁・著屋宗八、浪華 高麗橋一丁目・藤屋弥兵衛」
「平安書林橘枝堂蔵板目録/京二条通富小路西エ入町・野田藤八」の
広告あり。

※宝曆壬午(十二年)秋八月、片岡如圭自序あり。

七三、周易象解

刊本、一冊 一八・五×一二・三糎

(外)周易象解(内)周易象解

丁数 一〇六・五

刊年不明。明和二年自序。

「星文堂蔵書目録/大坂高麗橋一丁目・藤屋浅野弥兵衛」の広告あり。
※吉川祐三著、村上周青校。

七四、古易断時言

刊本、全四巻のうち巻二のみ存、一冊 二二・七×一六・二糎

(外)古易断時言(内)古易断時言

丁数 五三

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

※新井白蛾著。

※日本古典籍総合目録データベースには、四巻四冊、明和八年刊。
文政六年、同七年の後印本ありとする。

七五、易象解

刊本、一冊 二六・五×一八・四糎

(外) 易象解(内) 易象解

丁数 一九

見返し「丙辰三月／浪花 賭春堂主人謹識」

蔵書印①「雲州／母里／山本屋」径三・〇糎、冊末

※関谷潜著。見返し丙辰は寛政八年。

(八) 仏教

七六、一念三千大宝珠図解

刊本、二卷一冊 二六・一×一八・一糎

(外) 題簽僅かに残るが摺り切れて読めず。(内) 一念三千大宝珠図解

丁数 六一

刊記「大阪心斎橋筋博労町南へ入／書林／本屋又兵衛」

※冊首に墨書き「小沙弥／奠恵定之」。

※安永癸巳(二年) 自序あり。

※日本古典籍総合目録データベースには、日建著、安永二年刊とする。

七七、澤水法語毎聞記

刊本、一冊 二五・七×一八・五糎

(外) 欠(内) 澤水法語毎聞記

丁数 五三

刊記「書林／江戸浅草茅町二丁目・須原屋伊八」書肆 青藜閣 江

戸浅草茅町二丁目・須原屋伊八」

※元文五年跋あり。

※冊首に朱書き「易管堂」、笹の朱印あり。目録の最初の部分に朱印あり(判読できず)。

七八、日蓮聖人御伝記

写本、卷三存、一冊 二五・四×一七・五糎

(外) 日蓮大菩薩御伝記(内) 日蓮聖人御伝記

丁数 三二・五

扉裏「天保六乙未歳二月吉辰／納慧玉之」

※冊首に朱印二種あり(判読できず)。

※日本古典籍総合目録データベースには、「日蓮大聖人御伝記」、十一卷五冊、延宝九年、寛政七年等の刊本を記載。

(九) 教訓・心学

七九、和語陰陽録

写本、一冊 二五・七×一七・七糎

(外) 和語陰陽録(内) 和語陰陽録

丁数 九五

書写年時不明。近世後期。

※刊本の写。

八〇、「教訓古今道しるべ」

写本、一冊 二二・五×一五・六糎

(外) (内) ナシ

丁数 五六

※刊本の写。末尾に「天保八丁酉秋／備中阿知郷倉敷／小野治右衛門／蝠翔斎弘度／蔵板」。

※末尾に「鶴田屋喜市郎／拾二才写之」「安政二年／鶴喜」、前表紙見返しに「鶴田屋喜市郎」、後表紙に「鶴田屋幾恵津」。いずれも墨書き。

※「教訓古今道しるべ」(小野弘度編、天保八年刊)と内容が合致することから、この刊本の写しと認める。

(一〇) 医学

八一、注能毒

刊本、三卷一冊 一三・四×一九・二糎

(外) 欠(目録) 注能毒

丁数 九八・五

刊記「承応二癸巳年仲秋吉旦／開板」書肆名を削除。後印か。

※巻首題は、「住能毒」(巻上)、「能毒」(巻中・下)。

※末尾に「天正八年庚辰十月六日夜畢／盍静翁道三」。

※曲直瀬道三述、曲直瀬玄朔校。

八二、合類増補衆方規矩

刊本、序・凡例・目録・用藥之一字銘、卷一～五存(卷六欠)、六冊

一二・七×一八・九糎

(外)「合類／新改」増補衆方規矩(内)合類増補衆方規矩

丁数 (一)二四(二)三七・五(三)三三・五(四)三〇・五(五)三七・五(六)四一

最終冊存せず、元來の刊記等については不明。

※墨印「董知」(径一・五糎)、墨印「桎九」か。一・六×一・〇糎あり。いずれも各冊末。

※永原了の増撰、山田昌殷校正。延宝丙辰(四年)序あり。

(一一) 兵学

八三、武用辨略

刊本、全八巻のうち巻一存、一冊 二一・九×一五・五糎

(外) 武用辨略(内) 武用辨略

丁数 五九

最終冊存せず、元來の刊記等については不明。

蔵書印③(「山本屋」二一・一×一・〇糎)、冊首

※冊首に墨印(「禮□之印」、二・三×二・七糎)あり。

※木下義俊編。貞享甲子(元年)自序あり。

八四、軍法極秘伝書

刊本、全七巻のうち巻一、二、四存、三冊 二六・八×一九・二糎

(外) 軍法極秘伝書(内) 軍法極秘伝書

丁数 (一)二一(二)三〇(三)二三

最終冊存せず、元來の刊記等については不明。

※竹中半兵衛(重治)著。

※日本古典籍総合目録データベースには、七巻七冊、慶安二年等の

刊本を記載。

(一二) 占卜

八五、呂祖全書治病仙方決疑籤

刊本、一冊 一九・五×一二・八糎

(外) (上部破損) 實真人神方占 (内) 呂祖全書治病仙方決疑籤

丁数 五八

刊記「安永八年己亥春正月／京寺町五条上ル町・中野宗左衛門、江戸通本石町十軒店・山崎金兵衛、大坂高麗橋一町目角・浅野弥兵衛」

「星文堂藏版目録／易書部・卜筮部・天文部・曆学部・他書は別に録あり／大坂高麗橋壹町目・藤屋浅野弥兵衛刊」の広告あり。

見返し「安永己亥新鑄／唐呂洞實真人伝 日本神亀居士抄解／神方占 全部一冊 占牌五十／うらなひを以て万病の薬方を得るの書／浪華星文堂書坊刊行」

蔵書印③ (「山本屋」二一・一×一・〇糎)、冊首

※安永七年、雄琴子源君龍(水谷雄琴)序あり。

(一三) 経済

八六、「羅糶／必用」八木虎之巻

刊本、一冊 一〇・七×一五・八糎

(外) 題簽は破損してごく一部が残るのみ。(内)「羅糶／必用」八木

虎之巻

丁数 三五

刊記「宝曆七丁丑正月吉日／書林 山崎金兵衛板」

※後表紙に墨書き「松原氏」。

※猛虎軒主人著。

(一四) 道中記

八七、伊勢参宮道中記

刊本、一冊 七・二×二五・四糎

(外) 伊勢参宮道中記 (内) ナシ

丁数 六

※三才および末尾に、「御定宿／道頓堀日本橋南詰／近江屋市次郎」の広告あり。頒布元か。近世後期頃。

(一五) 絵画

八八、画図撰要

刊本、全三巻のうち巻中存、一冊 二六・七×一七・六糎

(外) (内) ナシ (目録) 画図撰要

丁数 二〇

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

※前表紙に墨書き、「雲州布部村□□」(名前の部分は摺り切れて読めず)。冊末に墨書き、「治右衛門本」。

※日本古典籍総合目録データベースには、玉翠斎義包画、明和三年刊とする。

(一六) 類書

八九、増補拾玉智恵海

写本、一冊 二五・四×一七・七糎

(外) 智恵海(内) 増補拾玉智恵海

丁数 六九

書写年時不明。近世後期頃。

※「増補拾玉智恵海卷之中」、「増補拾玉智恵海卷の下」、「拾玉新智恵海卷之上」、「拾玉新智恵海卷之中」より成る。

※刊本からの写し。日本古典籍総合目録データベースには、藤井政

武(見隆)編、「増補拾玉智恵海」三卷、「拾玉新智恵海」三卷の

刊本を記載。

(一七) 古銭

九〇、新改古銭箱

刊本、一冊 二三・〇×一六・一糎

(外) 御古銭箱新改(後補墨書き)(扉) 新改古銭箱

丁数 九

扉「大坂向陽堂板／新改古銭箱／取次売弘所／京丸田町日暮東入・

平井弥三兵衛」

刊年不明。近世後期。

墨書き「寛政十二年庚午正月元日 山本氏」、前表紙

※上・下・中の順に綴じられている。

(一八) 法制

九一、裁秘録

写本、十六卷一冊 二五・〇×一八・〇糎

(外) 載秘録(内) 裁秘録

丁数 二八七

書写年時不明。近世後期。

※冊中に朱印あり(「藤田蔵書」勝)。

【付記】本稿は、山陰研究センター基盤形成事業(二〇一三年度)の

成果の一部である。

The List of Yamamoto-bunko owned by San-in Research Center(3)

TANAKA Norio

(Shimane University, Faculty of Law and Literature)

[Abstract]

Yamamoto-bunko owned by San-in Research Center is a collection of classical books inherited by the House of Yamamoto, in Mori, Yasugi City, Shimane Prefecture. It includes the novels written in the Edo period (especially *jitsuroku*), the books of Chinese poetry, and those of *haikai* produced in the Mori district.

Keywords : *jitsuroku*, the novels written in the Edo period